地域の高齢者同士で顔を合わせる機会が減ってしまって…
みんなの健康が心配です

浅見（あさみ）タカ子さん（西部）

令和２年度決算
支出をひもとく
福祉編

受診控え、医療費大幅減

高齢者スポーツ大会や健康まつりの中止、子育て支援センターの５ヵ月間閉鎖、受診控えによる医療費、各種検診費などが大幅減額となった福祉部門。
一方で、民営化される用土保育所、病後児保育事業の準備が進められました。

密を避け 顔を合わせる機会も減少
「笑顔を忘れていませんか？」

子どもや高齢者の「心と体の健康」に大きな影響をもたらす「人とのつながり」　新しい生活様式での健康づくりに期待

注目のData「寄居病?! 脳血管疾患」

※数字は令和元年度。順位は県内６３市町村中

	男性	女性
平均寿命	80.58歳（46位）	86.53歳（51位）
健康寿命	17.30歳（55位）	19.94歳（59位）

健康寿命とは…65歳以降、健康でいられる期間のこと。

寄居町民の死亡原因（数字は令和元年度）

1位…がん：１３２人　（県平均の1.01倍）
2位…心疾患：６１人　（　〃　1.03倍）
3位…脳血管疾患：４５人　（　〃　1.35倍）
4位…肺炎：３４人　（　〃　1.06倍）

健康長寿は誰もが願うもの。そのためにも原因と結果を分析し、対策と意識の向上が不可欠。

コロナ禍でも
できたこと・実施したこと　※（ ）事業額

- 新型コロナワクチン接種準備（1077万円）
- 高齢者向け自宅でできる運動パンフレット（80万円）
- 高齢者インフルエンザ予防接種事業（3726万円）
- 用土保育所民営化
  病後児保育事業（１億7665万円）
- すくすく子育て応援特別給付金（1300万円）

ここに注目！
敷地面積は3300平方メートル。児童定員95人（通常保育91人、病後児保育４人）でスタート。

新型コロナの影響で
できなかったこと・縮小したこと　※（ ）減少額

- 人間ドック・健康診断（▲800万円）
- 国保医療費（▲8900万円）
- こども医療費（▲2200万円）
- １００歳体操（▲22万円）
- 高齢者スポーツ大会（▲3万円）
- 各種検診（がん検診等）（▲546万円）
- 健康まつり・ラジオ体操（▲60万円）

ここに注目！
国保受診者は年間1万5162人減。
こども医療受診者は年間1万5127人減。

ギカイ議論
健康診断
子育て応援

岡本議員

問 特定健診、人間ドック・脳ドックの受診率が減少した理由は。

答 コロナ禍により、医療機関等、健診会場での「3密」を避けるため、被保険者の受入れの休止・制限を行ったため。

問 すくすく子育て応援特別給付事業の支援内容は。

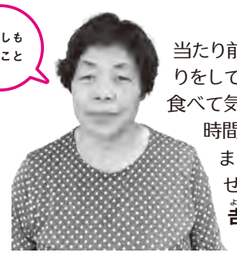
中嶋議員

答 国の「特別定額給付金事業」の給付基準日以後に生まれた子どもにも、町独自に乳児1人につき10万円の給付事業を実施。

ギカイの視点
長引くコロナ 高齢者の健康が心配

コロナ感染への懸念から医療機関への受診、検診等が減少し、医療費は大幅ダウンとなった。健康長寿県下ナンバーワンを目指してはいるが､現状では平均寿命、健康寿命ともに県内下位にとどまっている。高齢者スポーツ大会、100歳体操、老人クラブ活動なども中止となり、高齢者の「人と接する機会」の減少による心身の健康が気がかりである。

わたしもひとこと



当たり前に会っておしゃべりをして、美味しいものを食べて気兼ねなく過ごせる時間を心待ちにしています。普通が一番幸せなんですね。

吉田光枝（よしだみつえ）さん［折原］